

## 鬼十則

1. 仕事は自ら**創る**べきで、与えられるべきでない。
2. 仕事とは、先手先手と**働き掛けて**行くことで、受け身でやるものではない。
3. **大きな仕事**と取り込め、小さな仕事はおのれを小さくする。
4. **難しい仕事**を狙え、そしてこれを成し遂げるところに**進歩**がある。
5. 取り込んだら**放すな**、殺されても放すな、目的完遂までは……………。
6. 周囲を**引きずり回せ**、引きずるのと引きずられるのとでは、永い間に天地のひらきができる。
7. **計画**を持て、長期の計画を持っていれば、忍耐と工夫と、そして正しい努力と希望が生まれる。
8. **自信**を持て、自信がないから君の仕事には、迫力も粘りも、そして厚味すらがない。
9. 頭は常に**全回転**、八方に気を配って、一分の隙もあってはならぬ、サービスとはそのようなものだ。
10. **摩擦を怖れるな**、摩擦は**進歩の母**、**積極の肥料**だ、でないと君は卑屈未練になる。

真栄城 隆 様

行動工学研究所  
代表取締役・臨床心理士  
久保 哲彦



T P Iによる心理学的診断書

- 1、精神的エネルギーは極めて強く、外界に働きかける力に富む。
- 2、本来、社会的に外向性であり、開放的で明るく活発な人である。
- 3、知的であるが、理屈がなく、気持ちの温かい人柄であり、他人との気持ちの通じ合えるフィーリング豊かな人である。
- 4、物事の本質から観て、些細なとるに足りないことには捉われず、内心さっぱりしていて切れの良い人である。
- 5、本来の自己の能力を十分信頼していて、自信のある人である。
- 6、ものの見方考え方といった価値体系も明確であり、自分なりの信念や理想があり、自分の意見の主張もあって、主体性の確立した人である。
- 7、真面目な人であるが、考え方の幅が広く、多面的に思考でき、行動も柔軟である。
- 8、けれども、自分の理想の世界から、社会的状況や人を客観的に見下したり、眺めたりしがちで、ともすると、現実から遊離しがちである。
- 9、又、気持ちが優しい人だけに、まわりの人に遠慮したり気兼ねしたりするので、社会的状況からやや気遅れしがちである。
- 10、全体的に、明るいマイペースの姿勢が多く、ここ一番という時に、社会的状況や人の気持ちの中に、ストレートに飛び込み得ない。
- 11、したがって、本来の力が十分に生きていない。ストレートさと厳しさ不足である。



- ◆ 状況によっては自分にも他人にも、非情になり厳しく対処してみることに。
- ◆ そして、内心、心配していることや、気遣っていることを素直に表現し、ストレートさを身につけること。
- ◆ その為にも、客観的に眺めないで、人の気持ちの中や、問題の渦中に飛び込むこと。社会的状況や人の気持ちを洞察し、社会的感受性を磨き、敏感になること。
- ◆ そして、マイペースを崩し、まわりの人と共にある姿勢を創ること。

以上

## TP I コメントの受け止め方

1、その人の「自分で思っている自分の姿」と「他人から見られている姿」との間では多少にかかわらずズレがあるようです。

テストは第3の視点から科学的、客観的にその人の姿を浮き彫りにするものです。

2、テストに限界があり、百発百中とは申せません。

統計的所産と臨床経験によりデータを判断すると「あなたの現在の生きる姿勢がこの様に出ています」と言う事だと思ってください。

3、TP Iとは東大版総合人格テストの略です。

コメントの内容は「性格」と考えるよりは、「生きる上の現在の姿勢」と考えて下さい。

4、従って、「現在の姿勢」が変われば検査結果も変わり、コメントも変わります。その点も考えて下さい。

但し、「姿勢」が変わらなければ同じ様な結果が出ます。

「姿勢」は変え得るものです。

5、コメントは「生き方の癖」或いは「歪み」とも言うべきものに焦点を当てています。俗に言う長所、短所と言う見方はしておりません。歪みを自覚する事が、人格成長の根本になります。

### ※ 用語の説明

#### ○精神的エネルギー

各人に内在する精神的なエネルギーで、その人が外界に働きかけ得る影響力、迫力の源泉とも言える。この力は環境によって増減したり、或いは出し切れなかったり（配転直後の自信不足等）するが、イザとなれば出る性質を持つ。

以上